



# 経済構造

2.1	国内総生産と産業構造.....	33
2.2	国際的な融合.....	36
2.3	主要な産業クラスター.....	38

# 2

スイスは、世界で最もリベラルで競争力のある経済を有しています。かつてより、スイスは、外国と密接な経済関係を築いてきました。投資家にとって、スイスは堅牢な法体系と長期的に安定した国家基盤を持つ国であり、総体的に規制が少なく、研究機関にも近いため、欧州で質の高い製品やサービスを提供する事業拠点として選ばれています。

## 2.1 国内総生産と産業構造

スイスの国民1人当たりの国内総生産(GDP)は世界第2位です(図7)。2017年の国民一人当たりのGDPは、EU平均を大きく上回っています。GDPの約70%は、サービス部門によって占められています。GDPの25%を占める工業部門も経済の要です。基幹産業は、化学、資本財、銀行です。スイス経済は輸出志向が強く、GDPに占める割合で見ると、対外貿易は世界で最も高い水準にあります。EUはスイスにとって重要な貿易相手であり、輸出の53.8%、輸入の71.8%をEUとの取引が占めています。スイス経済では、中小企業が多数を占めています。国内企業の99%以上はフルタイム従業員が250人以下の企業です。これに対して、スイスに拠点を構えている多国籍企業は、スイス全体の国内総生産の約3分の1に当たる付加価値を生み出しています。これらの企業では130万人が雇用されており、被雇用者者の3人に1人が多国籍企業に勤務している計算になります。被雇用者は意欲にあふれ、責任感が強く、会社に対する忠誠心も旺盛です。このようなスイスの特質は、産業やサービス業における品質・サービス重視の精神に現れています。

### 1人当たり国内総生産(名目)、2017年

単位：1,000米ドル

(図7)

1	ルクセンブルク	108
2	<b>スイス</b>	<b>81</b>
3	マカオ	80
4	ノルウェー	74
5	アイスランド	73
6	アイルランド	69
7	カタール	61
8	米国	60
9	デンマーク	56
11	シンガポール	54
13	オランダ	48
17	香港	45
18	カナダ	45
19	ドイツ	44
23	フランス	40
24	英国	39
25	日本	39
27	イタリア	32
68	ロシア	10
69	ブラジル	10
76	中国	9

出典：IMFオンライン、2017年

スイスでは、就労者の約75%がサービス業に従事しています。製造業部門は22%ほどです(図8を参照)。先進工業諸国では、工業部門の重要性が低下する傾向にありますが、スイスでは、第二次産業の就業者の絶対数は過去20年にわたり安定しています。

## 産業構造および雇用率、2017年

(図8)

産業分野	被雇用者(2017年第3四半期)	
	1,000人	%
合計(農林業を除く)	4,917.00	100%
<b>第2次産業合計</b>	<b>1,077.1</b>	<b>21.91%</b>
鉱業、採石・採土業	4.9	0.10%
製造、加工	678.4	13.80%
エネルギー供給	29.3	0.60%
水の供給・環境汚染除去	18.8	0.38%
建設業	343.4	6.98%
<b>第3次産業合計</b>	<b>3,839.9</b>	<b>78.09%</b>
自動車販売、整備、修理	649.8	13.22%
運輸・倉庫	240.5	4.89%
サービス(観光、宿泊、飲食)	250.6	5.10%
情報通信	160.4	3.26%
金融・保険サービス	242.3	4.93%
不動産	60.6	1.23%
自営業、研究職、技術職、サービス	408.9	8.32%
その他サービス業	332.3	6.76%
行政	201.1	4.09%
教育	342.7	6.97%
医療・福祉	702.1	14.28%
芸術・娯楽・保養	97.5	1.98%
その他サービス業	152.0	3.09%

出典：連邦統計局(BFS)、雇用統計(BESTA)

競争力に関する国際指標では、スイスは長年に渡り上位につけています。2017年には、世界経済フォーラム(WEF)のランキングで、9年連続の1位に輝きました(図9)。スイスは、イノベーション力、優れた教育制度、柔軟な労働市場に対して最高点を獲得しています。

## 国際競争力ランキング、2017年

総合評価1-7

(図9)

1	スイス	5.86
2	米国	5.85
3	シンガポール	5.71
4	オランダ	5.66
5	ドイツ	5.65
6	香港	5.53
7	スウェーデン	5.52
8	英国	5.51
9	日本	5.49
10	フィンランド	5.49
18	オーストリア	5.25
19	ルクセンブルク	5.23
20	ベルギー	5.23
22	フランス	5.18
24	アイルランド	5.16
27	中国	5.00
38	ロシア	4.64
40	インド	4.59
43	イタリア	4.54

出典：世界経済フォーラム、国際競争力レポート 2017-2018年

イノベーションに関しても、スイスは世界のトップクラスです。2017年には、世界で最もイノベティブな国として、7年連続でグローバル・イノベーション・インデックスの首位に輝きました(図10)。

### グローバル・イノベーション・インデックス、2017年

総合評価0-100

(図10)

1	スイス	67.7
2	スウェーデン	63.8
3	オランダ	63.4
4	米国	61.4
5	英国	60.9
6	デンマーク	58.7
7	シンガポール	58.7
8	フィンランド	58.5
9	ドイツ	58.4
10	アイルランド	58.1
12	ルクセンブルク	56.4
14	日本	54.7
15	フランス	54.2
16	香港	53.9
18	カナダ	53.7
22	中国	52.5
29	イタリア	47.0
45	ロシア	38.8
60	インド	35.5
69	ブラジル	33.1

出典：INSEAD、グローバル・イノベーション・インデックス、2017年

「スイスは、世界トップのイノベーション  
大国です。優れたイノベーションの  
成果を誇り、イノベーションにとって  
理想的な環境を提供しています。  
成熟した市場と経済がその証です。」

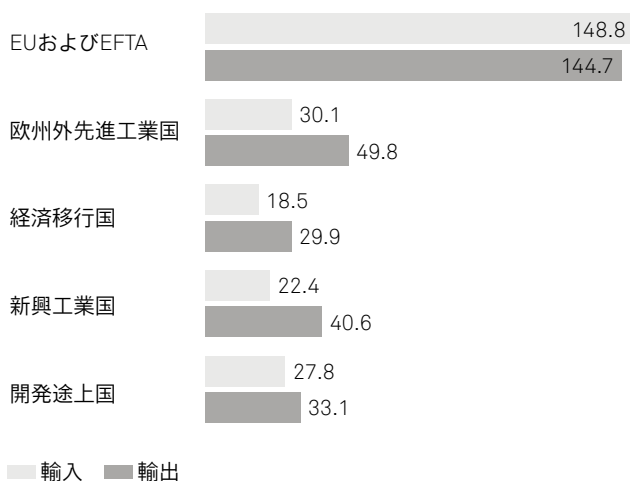
## 2.2 国際的な融合

スイスは、国内市場の規模が小さく、水を除くと天然資源には恵まれていません。そのため、企業の多くは産業が誕生した当初から、最も重要な販路を外国に求めざるを得ませんでした。国外に開放的になる必要に迫られたこの状況のおかげで、スイスは世界貿易において重要な役割を担うことになったのです。輸出はGDPの約33%を占めています。スイスは、物品とサービスの両方において重要な輸出国として、主導的な役割を果たしてきました。

### 経済圏別貿易状況、2016年

輸出入額 単位：10億スイスフラン

(図11)



出典：連邦税関局(FCA)、2017年

### 2.2.1 物品とサービスの取引

欧州は、スイス経済にとって最大の貿易相手です(2016年)。EU諸国との取引は、輸入に関して約70%、輸出に関して50%以上に上りません。輸出入の双方において、ドイツは、伝統的にスイスの最重要貿易相手国です。主要な輸入先は第2位がイタリア、第3位がフランスです。国際的にみると、米国がスイスにとっての第2の貿易相手国であり、中国がこれに続きます。

輸出で成功を収めている産業分野の典型例として、スイスの「隠れた自動車・航空産業」と呼ばれる分野を挙げることができます。高度に専門化された生産システムや処理システムを持つ企業のネットワークは、世界的にはあまり知られていないものの、精密工学、マイクロメカニクス、素材技術や合成樹脂、繊維など様々な分野にコンポーネントを提供しています。テクノロジーを牽引するイノベーションパートナーとして、これらのスイス企業は、高品質・高精度の製品を生み出す信頼できる存在として認められています。

スイスはWTO協定を締結しています。自由貿易協定を結び、EFTAの構成員として、またEU加盟国との二国間協定を通じ、継続して市場の自由化に取り組んできました。一貫した市場の自由化政策のおかげで、市場としての規模は小さいながらも、スイスは効率の良い貿易の中心地となり、経済的に重要な市場へと成長を遂げたのです。

「スイスは、外国企業にとって魅力的な立地です。2015年の対内直接投資は、8,330億スイスフランに上りました。」

## 2.2.2 直接投資

スイスは、グローバル市場への進出が最も進んでいる国のひとつです。2015年の対外直接投資は、1兆1,210億スイスフランに上りました。対外直接投資を行っているスイス企業は、国外の子会社や事業部門で約300万人の雇用を生み出していますが、同時にスイス国内でも重要な雇用主となっています。スイスは、対外直接投資に関して世界10位以内に入っています。米国にとっても、スイスは、重要な直接投資元です。2015年には米国に対してスイスの直接投資全体の18.3%、2,051億1,700万スイスフランが投資されました。

一方、スイスは、国外の投資家にとっても魅力的な投資先です。特にEU圏(全体の79.3%、6,605億200万スイスフラン)や米国から大きな投資を受けています。スイスにおける米国企業の資本ストックは、11.7%、978億1,400万スイスフランに達しています。

### 直接投資：資本ストック、2015年

(図12)

資本ストック、2015年末	スイスの対外直接投資		外国からスイスへの直接投資	
	100万スイスフラン	%	100万スイスフラン	%
<b>合計</b>	<b>1,120,843</b>	<b>100.0 %</b>	<b>833,193</b>	<b>100.0 %</b>
<b>EU</b>	<b>544,939</b>	<b>48.6 %</b>	<b>660,502</b>	<b>79.3 %</b>
英国	50,930	4.5 %	38,137	4.6 %
ドイツ	38,192	3.4 %	25,011	3.0 %
オランダ	121,944	10.9 %	196,988	23.6 %
ルクセンブルク	137,772	12.3 %	202,112	24.3 %
フランス	47,144	4.2 %	40,301	4.8 %
イタリア	15,558	1.4 %	4,342	0.5 %
スペイン	8,469	0.8 %	10,246	1.2 %
オーストリア	6,787	0.6 %	62,597	7.5 %
<b>その他欧州諸国</b>	<b>33,589</b>	<b>3.0 %</b>	<b>10,736</b>	<b>1.3 %</b>
オフショア金融センター	19,196	1.7 %	該当なし	該当なし
ロシア連邦	9,328	0.8 %	該当なし	該当なし
<b>北米</b>	<b>246,629</b>	<b>22.0 %</b>	<b>97,505</b>	<b>11.7 %</b>
米国	205,117	18.3 %	97,814	11.7 %
カナダ	41,512	3.7 %	-309	0.0 %
<b>中南米</b>	<b>150,246</b>	<b>13.4 %</b>	<b>65,474</b>	<b>7.9 %</b>
ブラジル	9,265	0.8 %	該当なし	該当なし
オフショア金融センター	123,593	11.0 %	67,359	8.1 %
<b>アジア、アフリカ、オセアニア</b>	<b>145,440</b>	<b>13.0 %</b>	<b>9,711</b>	<b>1.2 %</b>
日本	9,379	0.8 %	5,649	0.7 %
シンガポール	17,627	1.6 %	該当なし	該当なし
中国	20,020	1.8 %	該当なし	該当なし
香港	6,894	0.6 %	該当なし	該当なし
台湾	1,802	0.2 %	該当なし	該当なし
インド	4,779	0.4 %	該当なし	該当なし
オーストラリア	17,173	1.5 %	該当なし	該当なし

出典：スイス国立銀行(SNB)、2017年

## 2.3 主要な産業クラスター

経済的な観点では、一定の地域内で相互に結びついた製造業者、サプライヤー、研究機関(大学など)、サービスプロバイダー(デザイン事務所やエンジニア事務所など)そして関係機関(商工会議所など)のネットワークをクラスターと呼びます。こういったネットワークでは、バリューチェーンに沿った共通の取引関係を形成しています(自動車製造業など)。クラスターを構成する企業や機関は、供給、競争あるいは共通の利害を通じて結びついています。こうしたネットワークがクラスターと呼ばれるのは、1つまたは複数のバリューチェーンに沿って活動を相互に補完したり、相互に関連する多数の企業が集まっている場合に限られます。こういった条件がそろって初めて成長の基盤が築かれ、サプライヤーや専門のサービスプロバイダーを誘致でき、関係するすべての企業にとって競争のための利点が確立されます。

スイスには、このような産業クラスターが複数存在しており、国際的にも重要な位置を占めています。以下では、最も重要なスイスの業界別クラスターを簡潔にご紹介します。クラスターは部分的に重複しているため、掲載した数字はあくまで参考としてご覧ください。

### 2.3.1 ライフサイエンス：化学／製薬、バイオテクノロジーおよび医療技術

スイス北西部では、ノバルティス、ロシュ、シンジェンタなど大きな成功を収めている世界的なコングロメイト、そして中小企業が他に例を見ない産業クラスターを形成しています。バーゼルとその周辺地域は、国内外の製薬・化学企業の拠点として選ばれています。スイスの化学・製薬産業は、事実上、特殊化学品に特化し、国際市場を対象として活動しています。製品ポートフォリオのおよそ4分の3が、いわゆるライフサイエンス製品(生体の代謝過程に作用する製品)によって占められています。また、国外での売上高は、全体の98%に達しています。化学品・医薬品は、スイスの最も重要な輸出品であり、物品輸出の約40%を占めています。スイスに拠点を置く化学・製薬企業は、数多くの市場で世界屈指の地位にあり、約44,200人ももの従業員を抱えています。この分野がGDPに占める割合は、約4%に上ります。これ以上のGDP構成比を誇る産業分野は、金属・機械産業分野しかありません。

ノバルティス、ロシュというメガ・ファーマ(巨大製薬企業)や近年スイスに進出したCSLベーリング、UCBファーマ、グレンマーク、バイオジェン・アイデックなどがもたらす波及効果によって、バーゼル、ベルン・フリブール・ヌーシャテル地域、レマン湖周辺にバイオテクノロジーのクラスターが形成されました。2017年には、この産業分野に15,300人を超える人々が従事していました。バイオテクノロジー企業がこれほど集中している地域は、世界でも例を見ません。スイスのバイオテクノロジー企業の半数以上は、従業員数20人未満の小規模企業です。これらの企業にとっては、スイス国内や近隣諸国の大手企業への地理的な近さがメリットとなっています。スイスに本社を置く著名なグローバルプレイヤーには、アクテリオン、アムジェン、バイオジェン・アイデック、クルーセル、メルクセロノなどがあります。欧州諸国と比べたときの密集状況は明白です。

医療技術企業もスイスに集中しています。医療技術部門には、1,350社が名を連ねています。内訳をみると、約300社が製造会社、480社がサプライヤー、220社が販売・流通、そして350社が専門サービスプロバイダーで構成されています。これらの企業は主にレマン湖地方、ベルンからビールにかけての一角、バーゼル地域、チューリヒ都市圏に拠点を置いています。スイスで生産される製品の75%が輸出され、これはスイスの輸出全体の5.2%に相当します。2016年の純売上高は約141億スイスフランでした。研究開発投資、成長率、利益率は、平均を大きく上回っています。全体で医療技術分野には、約54,500人が従事しています。これは労働人口の1%に相当し、ほかのどの国よりも高い水準にあります(ドイツ：0.4%、英国/EU/米国：0.2%)。最大の雇用主はシンセスで、これにロシュやジョンソンエンドジョンソンの診断部門が続きます。世界で事業展開しているスイス企業としては、このほかにイプソメド、ソノバ(補聴器)、ストロマン(歯科用インプラント)などが挙げられます。ジンマーバイオメット、メドトロニック、ビーブラウン、ストライカーなどの大手外資系企業も存在感を示しています。

[www.s-ge.com/invest-lifesciences](http://www.s-ge.com/invest-lifesciences)

スイスの概要—ライフサイエンスの拠点

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.s-ge.com/invest-pharma](http://www.s-ge.com/invest-pharma)

スイスの概要—製薬産業の拠点

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.s-ge.com/biotech](http://www.s-ge.com/biotech)

スイスの概要—バイオテクノロジーの拠点

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.s-ge.com/medtech](http://www.s-ge.com/medtech)

スイスの概要—医療技術の拠点

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.scienceindustries.ch](http://www.scienceindustries.ch)

スイス化学・製薬・バイオテクノロジー産業会

言語：ドイツ語、英語、フランス語

[www.swiss-medtech.ch](http://www.swiss-medtech.ch)

スイス医療技術連盟

言語：ドイツ語、英語、フランス語

### 2.3.2 機械・電気・金属産業

機械・電気・金属産業(MEM)は、スイス最大の産業部門であり、320,000人が従事するスイス経済の柱です。2016年にこの産業部門が創出した付加価値は、全体の7.4%でした。

スイスの機械・電気・金属産業部門には、サブセクターで世界のトップを走る企業が数え切れないほどあります。この産業部門の製品の約80%は、輸出に当てられています。これは、スイスの輸出総額の35%を占めます。

OCエリコン、リーター、シンドラー、ABBなど有名な金属・機械産業大手は、ほぼすべての州に拠点を置いています。チューリヒ州、アールガウ州、ライン峡谷、ティチーノ州、ヴァレー州、スイス中央部を中心に、国際比較のうえでも上位に食い込むような成長が遂げられています。製造原価の安い国に対抗するため、大半の企業は技術革新と品質に的を絞り、世界市場における地位の維持と拡大に努めています。機械・電気・金属産業が今日なお国際市場で競争力を発揮している背景には、大きく進んだ構造転換と新技術の活用があります。

スイスの時計産業は、主にジュネーブからシャフハウゼンに至るジュラ地方(「時計メーカー地帯」と呼ばれています)に広がっています。ミッテルラント、ティチーノ州、ヴァレー州に拠点が置かれ、ジュネーブ、ビール、ラ・ショー＝ド＝フォンは、時計製造の三大中心地です。スウォッチグループ、IWCシャフハウゼン、ロレックスSA、リシュモン、LVMHグループなどの企業が、この地方に本社拠点を構えています。スイスの時計産業では、高度に機械化された製品を製造するため、分業化が顕著に進んでいます。このため中小企業が多く、1社当たりの平均従業員数は70人を下回っています。2017年の時点で、約700社で59,000人が雇用されています。企業と就労者の95%はジュラ地方の9つの州に集中し、時計産業クラスターが形成されています。スイスの時計メーカーは、特に高級時計の分野において、世界市場のなかでも傑出した位置にあります。スイスで製造される時計の95%は輸出されません。2016年の輸出額は194億スイスフランに上りました。

この地域には、専門的ノウハウと高い技能を持つ熟練労働者が集まっているため、時計産業に類似した技術を必要とする異業種企業が続々と進出しています。この「精密機器クラスター」には医療技術が数えられ、特にここ数年でこの地域での存在感を著しく高めています。マイクロメカニクスと光学を中心とするクラスターも、スイス東部とベルン地方に誕生しています。

[www.s-ge.com/invest-mem](http://www.s-ge.com/invest-mem)

スイスの概要—機械・電気・金属産業の拠点  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.swissmem.ch](http://www.swissmem.ch)

スイス機械・電気・金属産業協会(SWISSMEM)  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

[www.fhs.swiss](http://www.fhs.swiss)

スイス時計協会FH  
言語：英語、フランス語、中国語、日本語

### 2.3.3 情報通信技術

スイスは、情報社会に必要なインフラ設備の開発を先導しています。OECDによると、固定インターネット・ブロードバンドの人口あたりの普及率は50%で、オランダとデンマークを抜いて世界のトップに立っています(図47、11.2を参照)。14歳以上の人口の85%以上がインターネットを使用しています。世界経済フォーラムの「ネットワーク整備指数(2016年版)」によると、スイスはシンガポール、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、米国、オランダに続いて第7位につけています。情報通信技術(ICT)分野には210,800人が従事しており、ICT関連の職業規模としては世界第6位に入っています(2015年)。

チューリヒからボーデン湖に至る地域では、IBM、グーグル、マイクロソフトなどの有名IT企業が、スイス連邦工科大学チューリヒ校とその研究所、チューリヒ大学などを取り囲むように拠点を置いています。これらの企業にとっては、大学への近さも拠点選びの決め手になりました。ベルンヤルツェルンにもITセンターが誕生しています。ノーザンエンジニアリングやコアシステムズといったスイスのIT企業は、市場をリードする存在です。シーメンス、デル、HP、ロイターなどの外国企業は、IT業界でも多くの従業員を抱えています。非常に高い教育を受け、専門的スキルを持ち、数か国語に堪能な人材こそ、外国のIT企業がスイスに拠点を設けるに至った重要な理由のひとつです。

[www.s-ge.com/invest-ict](http://www.s-ge.com/invest-ict)

スイスの概要—ICT拠点  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.s-ge.com/data-centers](http://www.s-ge.com/data-centers)

スイスの概要—データセンター  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.bakom.admin.ch](http://www.bakom.admin.ch)

連邦通信局(OFCOM)  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

[www.ictswitzerland.ch](http://www.ictswitzerland.ch)

ICTスイス(上部団体)  
言語：ドイツ語、英語

[www.digitalswitzerland.com](http://www.digitalswitzerland.com)

デジタル拠点としてのスイスの強化に向けたナショナル・イニシアティブ  
言語：英語



### 2.3.4 クリーンテック

クリーンテックには、環境汚染を低減し、天然資源や自然システムの持続的な利用を可能にする技術、プロセス、物品およびサービスが含まれます。クリーンテックの適用領域はすべての経済部門におよび、更にはバリューチェーン全体に影響を与えます。スイスは、資源の限られた小国として、早くから環境保護に取り組んできました。廃棄物収集、ミネルギー(省エネ)基準、下水処理場、廃棄物からのエネルギー回収などは、スイスの人々にとってごく自然のことです。厳しい法規制により産業ことのソリューションに関心が集まり、長年にわたって貴重な経験が蓄積されてきました。このことが、斬新でイノベーティブな開発の原動力となっています。今日クリーンテック部門には、全労働人口の5.5%に相当するおよそ530,000人が従事しているとされます。総付加価値額は推計490億スイスフランで、GDPの4.2%に相当します。スイスのクリーンテック企業の38%が製品やサービスを輸出しています。このセクターの特徴は、スタートアップやスピノフから大手多国籍企業まで、多種多様な企業が混在していることです。

[www.s-ge.com/cleantech](http://www.s-ge.com/cleantech)

クリーンテック輸出促進

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.s-ge.com/cube](http://www.s-ge.com/cube)

スイスのクリーンテック企業に関する公式データベース

言語：英語

[www.cleantech.admin.ch](http://www.cleantech.admin.ch)

クリーンテックに関する公式情報

言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

[www.swisscleantech.ch](http://www.swisscleantech.ch)

スイスクリーンテック経済連盟

言語：ドイツ語、フランス語

### 2.3.5 本社機能

スイスには、外国企業のグローバル本社と地域本社が集中しています。欧州企業がスイスにグローバル本社を設置しているのに対し、米国企業はスイスに地域本社を置く傾向があります。KPMGが2016年に行った調査によると、850社以上の多国籍企業が本社やその他の中枢機能をスイスに置いています。これらの企業の75%近くが北米と欧州の企業です。続いて日本(11%)、中国(4%)、その他アジア太平洋地域の企業が続いています。スイスに移転した企業の代表例として、イーベイ、バイオジェン、ボンバルディア、ゼネラルモーターズ、日産自動車、ソニー、グーグル、IBM、モンデリーズなどがあり、企業の本拠地としてスイスが魅力的であることを示しています。

拠点を選定する際の重要なポイントとして、有利な税制、優秀な人材、高い生活水準、立地の良さなどが挙げられます。経済的な意味での中立性も重要です。スイスに本社を置けば、欧州のどの市場においても一目置かれることになるのです。スイスは国の安定性、法的安全性とともに、人と環境の安全性についても高い評価を得ています。また、高い生活水準や優れた教育制度も評価されています。更に、研究機関や顧客への近さ、信頼できる租税条約なども利点として挙がっています。コンパクトな地域に極めて高い多様性を秘めたスイスは、テストマーケットとしても理想的です。

「850を超す外国企業が  
スイスに本社を設置しています。」

### 2.3.6 金融サービス

金融センターとしてのスイスは、経済の要であるとともに世界屈指のクラスターを構成しています。スイスにはおよそ260の銀行のほか、200の保険会社、1,800の年金基金があります。金融機関の大多数はチューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ルガーノに拠点を置いています。2016年には、直接付加価値が銀行と保険会社でそれぞれ300億スイスフラン、利益総額で約600億フランに達しました。これはスイス全体のGDPの9.4%に相当します。およそ214,000人が金融部門に従事しています(フルタイム)。これはスイスの全就労人口の5.6%に上ります。このうち約144,000人が銀行に、約70,000人が保険会社に勤務しています。金融業の重要性は大学の課程にも反映されています。金融機関とスイスの主要大学が共同で取り組んでいる「スイス金融研究所」では、金融に関する教育と研究を促進しています。

国際比較のうえで、スイスは金融センターとして高く評価されており、極めて高い競争力を誇っています。スイスの銀行はイノベーション、専門性、高い質をその特徴としています。強みを発揮する分野として、資産運用サービスがあります。世界中の国境を越えた資産運用の4分の1を実施するスイスは、国境を越えたプライベートバンキングの分野でも世界的リーダーなのです。グローバルに事業展開しているUBSとクレディスイスの大手2行に加え、地方銀行や専門サービスを提供する金融機関も多数存在しています。こういった多様性は金融センターとしてのスイスの大きな強みです。これによって、どの顧客も個別のニーズに合ったスイスの銀行を適切に選ぶことができます。

保険業界の成功要因や枠組み条件としては、国民所得の高さ、保障に対するニーズの高さ、安定した老齢年金制度、国際的なネットワークを誇るオープンな保険センター、信頼の置ける規制環境、再保険ビジネスの国際的なノウハウなどを挙げるすることができます。

金融機関に関する詳しい情報については、96ページ以下を参照ください。

[www.s-ge.com/financial-center](http://www.s-ge.com/financial-center)

スイスの概要—金融センター  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、日本語

[www.swissbanking.org](http://www.swissbanking.org)

スイス銀行協会  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

[www.svv.ch](http://www.svv.ch)

スイス保険協会  
言語：ドイツ語、英語、フランス語

### 2.3.7 貿易と資源

スイスは、世界有数の商品取引のプラットフォームです。世界の石油製品の約3分の1がジュネーブ経由で取引されています。さらに、ジュネーブは穀物、油糧種子、綿の取引で世界第1位、砂糖の取引は欧州第1位を誇ります。ツークは、鉱業製品の商取引センターです。天然資源に乏しい内陸国のスイスが商品取引で主導的な地位にあることについて、意外に思われるかもしれません。しかし、欧州の中心に位置するスイスは、コーヒーや綿の取引が始まった頃から様々な交易路が交わる場所でした。スイスが後に国際的な金融センターになったのも、古くからの地の利があったことによります。相対的な税率の低さに加え、商社は立地の良さ、充実したインフラ、外国との交通の便を重視します。

スイス経済にとっての重要性は、原材料取引が行われる数多くのサービス領域にも見ることができます。このサービス領域には、保険会社、法律事務所、コンサルティング会社、保証や信託会社、運輸や保安ビジネスなどが含まれます。スイスの大手銀行や州立銀行、各種外国銀行は地域ハブにおける原材料取引の資金調達に特化しています。これらの企業は原材料の調達資金を提供し、取引の円滑な処理を図り、運営や信用リスクに対する保護を提供しています。商品取引の総額は、スイスのGDPの約4%を占めます。

近年では、商品取引の重要性が高まっています。スイスの大手企業のうち、商社4社が上位5位以内に入っています(2017年)。上から順に、グレンコア(第1位)、ヴィトール(第2位)、カーギル(第3位)、トラフィグラ(第4位)です。

[www.stsa.swiss](http://www.stsa.swiss)

スイス原材料貿易・船舶交通連盟  
言語：ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語

[www.vsig.ch](http://www.vsig.ch)

スイス輸入卸売業者協会  
言語：ドイツ語、フランス語

[www.lcta.ch](http://www.lcta.ch)

ルガーノ商品取引協会  
言語：英語、イタリア語、ロシア語

[www.zugcommodity.ch](http://www.zugcommodity.ch)

ツーク商品取引協会(ZCA)  
言語：英語